

「沖縄おうらい」の利用・改善の状況と今後の課題 ～約7年間（2011年～2017年）の利用累計97,500冊～

加藤 真由美・加治工 尚子

1. 「沖縄おうらい」について

岐阜女子大学は、2004年から多くの関係者のご協力、特に仲本實先生（現、本学沖縄サテライト校特任教授）の尽力により、沖縄各地域の文化資料の収集・記録とデジタルアーカイブの開発を始めた。

2011年からは、蓄積されたこれらの資料を利用して、東海地方の高校生の修学旅行の事前事後学習・現地学習を支援するため、「沖縄修学旅行おうらい」（現「沖縄おうらい」）と称する冊子（A5版）とウェブページの作成を開始した。2011年度の初版から、希望する高等学校へ無料配布しており、利用累計は97,500冊（2018年3月現在）となっている。

内容は、高校生が多様な分野から沖縄に興味を持つことができるよう、7つのカテゴリー（観光施設／平和への願い／沖縄の世界遺産／沖縄の生活文化／沖縄の自然／沖縄の伝統文化／沖縄の産業）で構成し（図1）、初版から8年経つ現在も、アンケート（任意）結果を分析して追加や修正を毎年行っている（図2、図3）。

表1：「沖縄おうらい」の利用累計

2011年度	(初版) 10,000冊
2012年度	16,000冊
2013年度	16,000冊
2014年度	14,000冊
2015年度	14,000冊
2016年度	15,000冊
2017年度	12,500冊

もくじ	
○はじめに ○沖縄おうらいについて ○ご利用にあたって ○著作権について ○自由利用マークについて ○二次元コードについて ○AR技術について ○ARを楽しむ方法について ○沖縄情報	
1. 観光施設	
Contents 1 沖縄美ら海水族館【国営沖縄記念公園（海洋博公園）】.....12	
Contents 2 国際通り.....12	
Contents 3 道の駅かでな.....13	
Contents 4 玉泉洞（おきなわワールド内）.....13	
Contents 5 アメリカンビレッジ.....14	
Contents 6 海中道路.....14	
2. 平和への願い	
Contents 1 平和祈念公園.....16	
Contents 2 ひめゆりの塔・ひめゆり平和祈念資料館.....16	
Contents 3 旧海軍司令部跡.....17	
Oral History 〇〇 子どもの視点からの戦中・戦後.....17	
山里栄昭氏 仲本實氏	
3. 沖縄の世界遺産	
Contents 1 今帰仁城跡.....20	
Contents 2 産喜味城跡.....20	
Contents 3 勝連城跡.....21	
Contents 4 中城城跡.....21	
Contents 5 首里城跡【国営沖縄記念公園（首里城公園）】.....22	
Lectures 〇 講演「首里城の復元と沖縄の文化」高良倉吉氏.....23	
Contents 6 園比屋武御前石門.....24	
Contents 7 玉陵.....24	
Contents 8 隠名園.....25	
Contents 9 斎場御嶽.....25	
Oral History 〇 「久米村の歴史」オーラルヒストリー 具志堅以徳氏.....26	
4. 沖縄の生活文化	
衣.....28	
Contents 1 芭蕉布 Contents 2 花織 Contents 3 耕	
Contents 4 ミンサー Contents 5 紅型	
食.....31	
Contents 1 料理 Contents 2 食材 Contents 3 菓子	
Contents 4 果物 おきなわレシビ	
住.....38	
Contents 1 琉球村 Contents 2 中村家 おきなわの住まい	
5. 沖縄の自然	
Contents 1 万座毛.....42	
Contents 2 志字利島.....42	
Contents 3 伊江島.....43	
Contents 4 カンガラーの谷.....43	
Contents 5 辺戸岬.....44	
Contents 6 大石林山.....44	
Contents 7 八重山諸島.....45	
6. 沖縄の伝統文化	
Contents 1 琉球舞踊.....47	
Lectures 〇 講演「沖縄の伝統文化を学ぶ」大城學氏.....47	
Contents 2 組踊.....48	
Lectures 〇 講演「沖縄の組踊」宮里祐光氏.....48	
Contents 3 エイサー.....49	
Oral History 〇 「沖縄エイサーの歴史」オーラルヒストリー 直保榮治郎氏.....49	
Contents 4 沖縄 獅子舞.....50	
Lectures 〇 講演「沖縄の獅子舞」宮里祐光氏.....50	
Contents 5 琉球音楽.....51	
Contents 6 わらべ歌.....51	
Contents 7 沖縄空手.....52	
7. 沖縄の産業	
Contents 1 焼酎.....54	
Contents 2 琉球漆器.....54	
Contents 3 琉球ガラス.....55	
Contents 4 三織.....55	
Contents 5 織物.....56	
Contents 6 農業.....56	
Contents 7 水産業.....57	
別紙1 沖縄エリア別 MAP 別紙2 琉球史・日本史対照年表	
○ 謝辞	

図1：2018年度版 冊子「沖縄おうらい」のもくじ（見開きページ）



図2：2017年度版から試行的に導入されたARで動画が楽しめるページ（各カテゴリーの中扉）



図3：2018年度版に追加されたコンテンツ

（画像上部の項目から）5. 美浜タウンリゾート・アメリカンヴィレッジ：女子高校生のアンケート結果から追加が決定した。／6. 海中道路：以前から離島情報の掲載についてご意見があったが、実際に高校生が修学旅行中に離島へ行くことは考えられなかった。しかし、近年タクシー研修が増加し、海中道路を利用すれば気軽に離島へも行くことが可能になったことから追加が決定した。

2. 「沖縄おうらい」の特徴

「沖縄おうらい」の特徴は、冊子の各項目に掲載しているQRコードである。読取りを行うと、タブレットPCやスマートフォンなどの端末により、詳細情報や関係資料を手元で簡単に閲覧することができる（図4）。また、動画やオーラルヒストリーなど、冊子では得ることができない情報を得ることもできる。このように、ページ構成の関係で詳細情報の掲載が難しい場合も、QRコードによる印刷メディア（冊子）と通信メディア（インターネット）との連携は有効である。



図4：QRコードによる印刷メディア（冊子）と通信メディア（インターネット）との連携



図5：AR技術を用いた印刷メディア（冊子）と通信メディア（インターネット）との連携

3. 新しい提示方法の導入

多様なデジタルデータの提示や利用が進むなか、利用者への新たなアプローチがデジタルアーカイブのデータ利用をさらに促進するのではないかと推察し、2017年度からQRコードによるデジタル資料の提示のほかに、試行的にAR技術の導入を行った。翌2018年度版からは高校生への配布用にもこれを導入することにした。

ARとはAugmented Reality（拡張現実）の略語であり、タブレットPCやスマートフォンなどの端末のカメラで映し出された現実の映像上に、デジタル情報を追加表示することにより、現実世界の情報を拡張することができる。その他、多様な機能を持つことから、現地学習の新たな提示方法として着目されつつある。例えば、タブレットPCやスマートフォンなどの端末のGPS情報と連携することで、現地へのチェックインなどによるポイントの取得やスタンプラリーへの参加などができる。これまでの学習内容を確認しながら現地を巡る学習などにも適しているといえる。

今回、導入したARの機能はそれらの一部であり、バーコードやQRコードなどの専用のコードは使用せず、写真や文字の配置などをマーカーとして利用し、リンク先へアクセスするものである（図5）。現在はまだ動画の提示のみであるが（図6）、今後、多用なAR機能の導入を図り、より学習しやすい教材開発や地域資料の提示に努めたい。



図6：ARによる読取りと動画の再生の実際の画面

（写真左から）読取り／データのダウンロード／動画の再生：画面中央部分で動画が再生されている。画面上部の「ここをクリック」をタップすると各カテゴリー（写真では「4. 沖縄の生活文化」）のトップページ（ウェブページ）にリンクしており閲覧することができる。

4. 今後の課題

「沖縄おうらい」を開発した当時、デジタルアーカイブの利用はまだ一般的ではなかったが、今では多くの分野に利用が広がりつつある。このように、新しい技術は汎化により利用が進むと多様な分野へ適用され、さらに利用が広がる。

同様に、「沖縄おうらい」に利用した沖縄の地域文化のデジタルアーカイブについても、現在、多様な分野への適用の検討や試行研究が進められている。

一例として、沖縄県内の小学校用の教材開発や「沖縄おうらい」の英語訳などがあげられ

る。前者は、小学校の地域文化の教材である。児童生徒が自分たちの暮らす地域の文化を学ぶためのデジタルアーカイブについて、資料の選定や説明等の研究が行われている。後者は、「沖縄おうらい」を利用した小学校の英語教材の開発である。紹介用に紙（紙芝居）を用いるなど、具体的な教材研究が進められている。

このように、観光や地域文化のほかにも広く利用可能なデジタルアーカイブの開発が今後の大きな課題である。

（注）「沖縄おうらい」という名称について

「往来（おうらい）・往来物」は平安時代から明治時代まで使われていたことばであり、主に「教科書」という意味で使用されていた。初期は平安時代の「明衡往来」、また「教訓的往来」「産業的往来」「地理的往来」として、その後は寺子屋や人々の生活の知恵本として使用されてきた。沖縄に関しては、袋中上人（1552-1639年）の記した「琉球往来」などがある。この教書としての「往来」という意味合いから（古語への興味関心）、また、かつての琉球王国の大交易時代の東南アジアを中心とした「ひと」「もの」「こと」の行き来（往来）という意味合いから（歴史への興味関心）、「沖縄おうらい」と名付けられた。



図7：和装本の「琉球往来」

この「琉球往来」は「琉球神道記」（著者横山重、昭和18年10月20日編、大岡山書店発行）の「琉球往来」部分の謄写である旨が奥付に記載されている。

【参考文献】

- 1) 沖縄おうらい委員会・岐阜女子大学, 「沖縄おうらい」, 2018.
- 2) 川田十夢・佐々木博, 『ARで何がかわるのか?』, 技術評論社, 2010.
- 3) 日経コミュニケーション(編), 『ARのすべて ケータイとネットをかえる拡張現実』, 日経BP社, 2009.
- 4) 細谷俊夫 他3名(編), 『新教育学大事典 第1巻』(初版), 第一法規出版, 1990.
- 5) 横山重, 『琉球神道記 弁蓮社(袋中)集』, 角川書店, 1970.